

○毀 …くずす。そこなう。

134 ○華巔…しらが頭。「華」は、「白い、また白髪」の意。

○歎 …なげく、ため息をつく、悲しみいたむ。

135 ○旅思…旅情、旅先での思い。

『漢語大詞典』には、「羈旅的愁思」と説明する。旅に身をおく人（故郷を遠く離れてよその土地に身を寄せる人）の、まさにわびしくうれえての物思いの意である。

○思 …おもい、うらみ、執念。

○排雲…雲を押し分ける。『漢語大詞典』には、「排開雲層、多形容高」と説明する。

○雲雁…雁。かりがね。雲鷹。

『藝文類聚』の「雁」の項に、「礼記曰、季冬之月、雁北向」の一文が見える。

また松浦友久編の『漢詩の事典』（大修館書店）の「雁」の項には、つぎのような説明がある。

雁は大空に「一」の字や「人」の字を描き、整列して渡って行く。これを雁行という。このことから、古来、君臣の秩序・兄弟の上下関係をこの「雁行」で呼びならわしている。また、さらに、事柄に順序をつけて処理することも「雁行」といったりもするのである。なおこうした整列飛翔を習性とする雁であるから、群れを離れてただ一羽で大空を飛ぶ「孤雁」は、それだけで孤独者の象徴となる。

↓  
補説②